



アドバンス生命理学特論・理学セミナー/ GTRセミナー

ゲノム継承機構の総合的理解に向けて

～ヒト体細胞とメダカ初期胚の分裂動態を比較して見えてきたこと～

清光 智美 博士

沖縄科学技術大学院大学 細胞分裂動態ユニット 准教授

日時：7月27日（水）13:30～15:00

場所：理学南館 NEOREX PLACE セミナー室



名古屋大学在籍時(2013.8-2020.3)は、伸び伸びと研究をさせて頂き、また温かく見守って頂き、有難うございました。名古屋で始めたプロジェクトの1つは、昨年ようやく論文として公表することができました (Tsuchiya et al., Current Biology 2021: Auxin-inducible degron法を用いたRan依存的ヒト紡錘体形成機構の解析)。本セミナーでは、まずその研究の要点を紹介しつつ、その派生として偶然に見つけた、染色体分配異常の新概念についてお話ししたいと思います(論文投稿準備中)。また、後半では、田中実先生の紹介で始めたメダカ初期胚分裂の研究の進展について、未公開動画も含めてお話しします(論文投稿準備中)。分裂期紡錘体は、保存された染色体分配装置であり、ゲノム情報の安定な継承に必須の役割を果たします。これまでの研究から、保存された主要構成因子や制御因子が多数同定され、動物細胞の分裂期紡錘体形成の基本モデルが提唱されています。しかし、これらの主要因子のいくつかを丁寧に観察してみると、初期胚という特殊なcontextでは、体細胞とはかなり異なる機能や、予想外の振る舞いを見えてきました。様々な視点から、ご意見を頂けると嬉しいです。

連絡先：田中 実 (生殖生物学グループ、内線2979)

